

(仮称)生物多様性おかやまプラン
第3回ワークショップ実施報告

1. 第3回ワークショップについて

第3回:岡山市で既に行われている保全活動をさらに広げるためにできること・必要なこと

ねらい	既存の取組の組み合わせ・マッチング、協働連携の方法、市による支援策など
開催日時	令和6年11月30日 13:15~17:00
場所	操山公民館
参加者	①生物多様性の保全に取り組む市内企業の担当者 ②市内で活動する自然保護活動団体の方
参加人数	14名 ・①企業担当者8名、②自然保護活動団体の方6名
座学	・講師:環境省中国四国地方環境事務所 秀田智彦企画官 テーマ:生物多様性に関する国内外の取組について ・講師:地域環境計画 テーマ:アンケート調査結果、第1回、第2回ワークショップの紹介
自己紹介	・参加企業・団体の活動紹介と抱えている悩みや課題の共有
意見交換	・岡山市で既に行われている保全活動をさらに広げるためにできること・必要なこと
ゴール(目標)	・既存の取組の組み合わせ・マッチング、協働連携の方法、市による支援策など

参加企業

No.	企業名	参加人数
1	藤クリーン株式会社	1名
2	両備ホールディングス株式会社	1名
	株式会社両備システムズ	2名
3	麒麟ビール岡山工場	1名
4	アサヒ化工株式会社	1名
5	株式会社サンキョウエーエンビックス	2名

参加自然保護活動団体

No.	企業名	参加人数
1	自然保護協会自然観察員連絡会岡山	1名
	ハマウツボネットワーク	
	親子自然で遊ぼう会	
2	竹枝を思う会	1名
3	富山の自然を楽しむ会	1名
4	瀬戸アユモドキを守る会	1名
5	山南ホテルの里連絡協議会	1名
6	日本野鳥の会岡山県支部	1名

2. 自己紹介と抱えている課題や悩み

No.	企業名・団体名	活動・取組紹介、悩み、課題など
1	藤クリーン株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・干拓地にあるリサイクル工場につくったビオトープ、ビオガーデンで環境教育を行っている ・岡山県第1号の自然共生サイトになった ・環境教育への支援を持続的なものにするためには対価と質の向上が必要で、学校と自然共生をマッチングさせれないかと考えている
2	両備ホールディングス株式会社 株式会社両備システムズ	<ul style="list-style-type: none"> ・企業として地域に何が出来るか？関わられることを考えたい
3	麒麟ビール岡山工場	<ul style="list-style-type: none"> ・工場内のビオトープで CSV 活動としてアユモドキや生きもの保全をしている ・自然共生サイトの登録はしたいが、継続できるか不安もあるので、そのあたりを検討したい
4	アサヒ化工株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・セアカゴケグモのピンポイント駆除を行っているが在来種への影響低減を進めたい ・上記の手法を他種にも拡大させたい
5	株式会社サンキョウエーエンビックス	<ul style="list-style-type: none"> ・環境分析、アセスメントを実施している ・生物多様性には関わりが少ない
6	自然保護協会自然観察員連絡会岡山 ハマウツボネットワーク 親子自然で遊ぼう会	<ul style="list-style-type: none"> ・ハマウツボの保全をしている ・子どもたちが自然とふれあえるような場を増やしてほしい ・身近に外来種のオオキンケイギクやナヨクサフジが増えているので、管理方法、対策を支援してほしい
7	竹枝を思う会	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープ休耕田を利用したビオトープを作っている ・自然を通じた遊びを子どもたちに伝えたい ・企業とも連携して活動を続けたい
8	富山の自然を楽しむ会	<ul style="list-style-type: none"> ・富山小の生徒と毎年倉安川で魚とりをしている ・河川清掃も行っている ・参加者を増やしたい
9	瀬戸アユモドキを守る会	<ul style="list-style-type: none"> ・アユモドキの域内、域外保全・調査を企業・学校など様々な団体と連携しながら行っている ・会員の高齢化が悩み
10	山南ホタルの里連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルの保全・観察、セトウチサンショウウオの保全を行っている ・街灯の LED 化がホタル減少に影響しているのではないかと懸念している
11	日本野鳥の会岡山県支部	<ul style="list-style-type: none"> ・野鳥の保全活動を行っている ・阿部池(身近な生きもの里)のサンクチュアリ化をしている

意見交換成果

成果	
<p>① 自然保護活動団 体が抱える課題 と参加者からの 意見</p>	<p>【課題1】メンバーが増えない、高齢化が進んでいて後継者がいない</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現メンバーで上手くいってる面もあり、必ずしも新メンバーが欲しいとは限らない ・ 参加者が地元から広がらない ・ 一度だけの参加でも自然に親しむキッカケになってくれればよく、必ずしも継続的に参加してくれなくてもよいという理念の団体もある ・ 参加した人が広めて、次につなげてくれればよい ・ 親も子供も(特に子供が)忙しく、参加する余裕がないのが課題 <p>【課題2】参加者を募るための情報発信はどうしているか</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館にチラシをおいてもらうといったアナログな方法で発信 ・ SNS を使った情報発信もしている ・ イベントに参加してくれた人に案内を出す ・ 今日初めて岡山市内にこんなに多くの活動があるのを知った ・ 活動に参加したい親は一定数いると思われるが、リサーチの仕方や、情報がどこにあるかがわからない ・ すごくたくさんの活動をされているのが全然キャッチアップできない ・ 一覧性の高いウェブページなどがあり、周辺市町村の活動情報も入手できると嬉しい ・ 参加への申し込みもウェブページからできるのが望ましい

成果	
② 企業が抱える課題と参加者からの意見	<p>【課題1】事業活動の一環で生物多様性に取り組む機会を持った時に、興味を持っていない人に参加してもらおう壁があるが、どのように取り組んできたか</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に社内に対して周辺にある環境についてまとめたりしたものを発信するようにしているが、自然・生きものに興味がないと人が集まらない ・ いかに発信していくか、興味を持ってもらうかが重要 ・ 自然共生サイトに認定された企業でも、認定後に社員の興味や認識に変化があったかというとなかなか厳しい ・ 生物多様性に関連する活動は企業振興には凄く大事だと思う反面、やらされている感があり、いかに自分事にしていくかという仕組みが大事 ・ 多くの人を巻き込むにはトップダウン的な普及、活動参加が必要な一方で、従業員が「やらされてる」ではなく自分事として捉えて自ら行えるようなボトムアップ的活動を支えるのも重要 ・ 瀬戸町のアユモドキの保全活動では、企業と保全団体が一緒に企業内のビオトープでアユモドキの保全に取り組み、地元小学校で人工繁殖させたアユモドキをビオトープに放して保全する取り組みを行っているが、イベントに参加した小学生が大きくなって新卒採用に応募してきたということがあり、企業のブランド価値向上に寄与している ・ アユモドキの保全では企業に着替える場所の提供や飲料水の提供をしてもらっていて、活動する側としては非常にありがたい

成果	
<p>③ 意見交換会の中ででてきた課題と参加者からの意見</p>	<p>【課題1】企業や団体の保全活動を小学校の課外活動に広げていけないか</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程にそのような単元はないため、学校側では実施するための理由付けが難しい ・ 一部の小学校などでは総合学習の時間に観察会を毎年やっているところもあるが、安全管理のリスクもあり相当熱心な学校でなければやってくれない ・ 放課後保育の団体が課外活動としてやっている場合はある ・ 飼育体験は親しみを持ってもらうのにかなり有効 ・ 課外活動を企業の活動に上手く組み込んでいる場合は、教育委員会と企業がやっていることを発信することで、親の世代の人たちに対して、こういう企業があることや取り組みがあることの紹介にもつながり、子供が将来進みたい方向を考える一助になる <p>【課題 2】保全活動の中で得られたデータはどのように管理されているのか、上手く活用されているのか</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察会イベントが一過性で終わるのはもったいない ・ 記録種のデータを集積する仕組みがあるべき ・ 記録を残すのは準備・とりまとめなどが大変で体力のない小団体では難しい ・ あくまで自然に触れ合うキッカケのためのイベントと割り切って一過性のものがあってもよいのではないか ・ アユモドキは天然記念物で、何かする場合には教育委員会の許可を得る必要があるため、アユモドキ関係のイベントで得られたデータは全て教育委員会に報告している ・ 公民会で実施した観察会のデータは岡山市に報告してもらい岡山市環境保全課でデータ化している(岡山市からの説明)

3. ワークショップ成果まとめ

◆活動の情報発信、情報取得

- ・ 公民館での広報や SNS などを利用し、参加してくれた人に次のイベント案内を送るのも効果的であるが、参加者が地元から広がらない。
- ・ 子どもに自然と触れ合う機会を与えたいと考えている親世代は多いはずだが、どこでいつどんな生物多様性関係の活動やイベントをしているかを探る手立てがない。
- ・ 一覧性の高いウェブページなどがあり、周辺市町村の活動情報も入手できると嬉しい。
- ・ 参加への申し込みもウェブページからできるのが望ましい。

◆企業活動として生物多様性に係る際、興味を持ってない人に参加してもらうには

- ・ 自然共生サイトに認定された企業でも、認定後に社員の興味や認識に変化があったかというとなかなか厳しい。
- ・ 生物多様性に関連する活動は企業振興には凄く大事だと思う反面、やらされている感があり、いかに自分事にしていくかっていう仕組みが大事。
- ・ 多くの人を巻き込むにはトップダウン的な普及、活動参加が必要な一方で、従業員が「やらされてる」ではなく自分事として捉えて自力行えるようなボトムアップ的活動を支えるのも重要である。
- ・ 瀬戸町のアユモドキの保全活動の例では、イベントに参加した小学生が大きくなって新卒採用に応募してきたということがあり、企業のブランド価値向上に寄与している。

◆企業や団体の保全活動を小学校の課外活動に広げるには

- ・ 教育課程にそのような単元はないため、学校側では実施するための理由付けが難しく、安全管理のリスクもあり相当熱心な学校でなければやってくれない。
- ・ 課外活動を企業の活動に上手く組み込んでいる場合は、親の世代の人たちに対して、こういう企業があることや取り組みがあることの紹介にもつながり、子供が将来進みたい方向を考える一助になる。

◆保全活動の中で得られたデータについて

- ・ 記録種のデータを集積する仕組みがあるべきだと思う。
- ・ 記録を残すのは準備・とりまとめなどが大変で体力のない小団体では難しい。
- ・ 公民館での観察会データは岡山市環境保全課でデータを管理し、アユモドキ関係のデータは教育委員会で管理している。

■意見交換で出た課題や施策につながる提案

- ・ 岡山市の生物多様性に関する情報を集約し、情報発信するプラットフォームを求める声の子育て世代からあった。
- ・ 保全活動団体が抱える悩みとして参加者の高齢化や地元からしか参加者が来ないという課題があるが、情報発信プラットフォームがあれば他地域の活動に関する情報が容易に得られるため、課題解決の糸口になるかもしれない。
- ・ 学校の課外活動と保全活動をリンクさせる有効性が認めれるが、保全活動に関するカリキュラムがないことから組み込むことのハードルは高い。アユモドキの保全活動は、企業、活動団体、地元小学校の協働で行われており、協働での保全活動のモデルケースとなりそう。
- ・ 岡山市内の生きもの情報(保全活動や観察会で得られたデータ)に関する情報を一元管理する仕組みが必要である。

4. 秀田企画官の総評

- ・ 皆さんが活動を始めたときの気持ちの中には好きとか楽しい、やりたいとか、そういうポジティブな何か気持ちがあったと思う。
- ・ 好きとか楽しい、やりたいという気持ちは、物事を進めるに当たってもものすごいエネルギーとなる。
- ・ 我々の目指しているところも、当たり前のこととして、生物多様性と付き合っていくような社会ですが、それが自然に回っていくのは、経済というファクターもあるが、根本にあるのは好きとか楽しい、やりたい、という気持ちだと思う。
- ・ 人集めの話もあったが、世の中には、こういうことがあればやりたいという人もたくさんいて、その証拠に、クラウドファンディングをやるとすぐに目標額に達する例も多い。
- ・ インターネットのつなげる力はすごいが、一方で、公民館とか市の広報などを身近に感じる人もおり、ありとあらゆることで好きと思っている人に知らせることが大事だということを、今回あらためて感じた。
- ・ 好きという気持ちがあまく結果につながるような仕組みづくりを、私たちも強く進めていきたいと感じた。

5. 意見交換の様子

